

科目名	手技実技 2							年度	2024	
英語科目名	Hand Therapy Practice 2							学期	後期	
学科・学年	鍼灸科 1年次		必／選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	宇野悦子		教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師あん摩マッサージ指圧師		
【科目の目的】										
手技施術の基本技術について実習する。日本の鍼灸施術は「触れる」ことから始まる。従って基礎技術として、触れる、押す、動かすなどの対人技術の習得が必要とされる。この課程では実際に手技を学ぶことによって人に触れること、身体を操作する技術を身につけ鍼灸施術の臨床に生かせることを目的とする。										
【科目の概要】										
指圧の基本操作を習得し、手技施術の理解を前期との違いなどからも深める。練習部位は頭部、腹部、体幹と進み習得した技術を統合して一連の手技群として流れを構築し総合的な手技として完成させる。										
【到達目標】										
A: 人体の構造を理解して体感する。 れるための「手（身体）」を作る修練をする。 圧の基礎（基本手技）を学び、間接的な接触で皮膚の状態、筋肉の状態、関節の状態、血液動態などを感じる。 D: 指圧の手技を学んでいく上では身体を操作する技術も身につけ、練習部位として頭部、腹部、肩甲間部と進めながら手技により身体に多くの影響を与えることが出来ることを理解し、習得した技術を統合して一連の手技群としての流れを完成させる。 E: 患者への接し方を含めて臨床を意識しながら実技を行い、それらを鍼灸に生かしていく。 B: 人に触 C: 手技としては指										
【授業の注意点】										
授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講は出来るが出席の扱いをしない。明確な理由がない早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示がある場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	解剖生理学を深く理解し、施術と関連づけられる	施術部位に関連した解剖生理学が分かり、どの様に触れるか考えられる	施術部位の解剖生理学が重要だと認識し、自主的に調べている	施術部位の解剖生理学がわかる	施術部位の解剖生理学が分からない					
到達目標 B	患者に対して考慮しながら触れ、身体構造的以外まで含めて区別できる	間接的に患者に触れた時の感覚の違いが身体構造的以外も含めて区別できる	間接的に患者に触れた時の感覚の違いが身体構造的に何かが分かる	間接的に患者に触れた時の感覚が表現できる	間接的に患者に触れた時の感覚が表現できない					
到達目標 C	押圧操作が一連の流れでできる	身体の動きと連動して押圧操作ができる	押圧操作の圧が一定にできる	主な基本手技である押圧操作ができる	基本手技ができない					
到達目標 D	手技を応用して鍼灸に繋げられる	押圧操作を行いながら身体構造以外の鍼灸に必要な身体の状態も分かる	押圧操作を行いながら身体構造が分かる	触れた部位の違いから身体構造が分かる	触れた部位の違いが分からない					
到達目標 E	臨床を想定して、治療院に入ってからの一連の対応ができる	施術中に患者へ配慮した対応ができる	患者に伝わるように配慮した会話ができる	患者に適した会話ができる	患者に適した会話ができない					
【教科書】										
プリント：各教科書より関連項目を抜粋（解剖生理学より筋肉、循環等）										
【参考資料】										
プリント										
【成績の評価方法・評価基準】										
積極的な授業参加度、授業態度及び習熟度、授業で行った提出物、実技試験等で総合的に評価する										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		手技実技 2			年度	2024
英語表記		Hand Therapy Practice 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイドダンス、指圧の基本手技について	手技、指圧に関する基本事項を理解する	1 手技について 2 指圧について 3 鍼灸との関連について	手技について理解している 指圧について理解している 手技として鍼灸に生かせることを理解している	3	
2	頭部	頭部に対して指圧を行う	1 前回の復習 2 頭部に触れる 3 押圧操作	前回の理解した上に本日の内容を繋げることを理解する 頭部に触れる時に身体の位置取りができる 母指で通常圧法ができる	3	
3	頭部	頭部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 頭部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に頭部の骨に触れる 通常圧法の圧を身体の動きを使って一定にできる	3	
4	頭部	頭部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 頭部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に頭部の骨までの深さが分かる 一定にした通常圧法の圧が指で分かる	3	
5	腹部	腹部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 腹部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 腹部に触れる時に身体の位置取りができる 手掌で通常圧法ができる	3	
6	腹部	腹部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 腹部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に腹部に触れ、呼吸で腹部が動くのが分かる 通常圧法の圧を呼吸に合わせてできる	3	
7	腹部	腹部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 腹部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に腹部に触れ、腹部までの深さが分かる 通常圧法が上肢の重さを利用してできる	3	
8	肩甲間部	肩甲間部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 肩甲間部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 肩甲間部に触れる時に身体の位置取りができる 母指で通常圧法ができる	3	
9	肩甲間部	肩甲間部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 肩甲間部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に肩甲間部の筋肉に母指で触れる 通常圧法の圧を身体の動きを使って一定にできる	3	
10	肩甲間部	肩甲間部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 肩甲間部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 間接的に肩甲間部の筋肉、骨に四指で触れる 一定にした通常圧法の圧が頭部と違うことが分かる	3	
11	頭部 腹部 肩甲間部	頭部、腹部、肩甲間部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 各施術部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する 各施術部の違いが分かる 施術部位に適した押圧操作ができる	3	
12	腰部	腰部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 腰部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容が本日の内容に応用できる 腰部にある多種の筋肉に触れる 腰部に適する位置取りで押圧操作ができる	3	
13	腰背部	腰背部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 腰背部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容が本日の内容に応用できる 腰背部にある多種の筋肉、骨に触れる 腰背部の身体構造に適した押圧の加減ができる	3	
14	下肢部 頸肩部	下肢、頸肩部に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 下肢、頸肩部に触れる 3 押圧操作	前回までの内容が本日の内容に応用できる 施術部位の身体構造の違いに適した触れ方ができる 身体構造違った部位でも適した押圧操作ができる	3	
15	全身	腹臥位で全身に対して指圧を行う	1 前回までの復習 2 全身に触れる 3 押圧操作	前回までの内容が本日の内容に応用できる 施術部位の状態が把握できる 全身に一連の流れで施術ができる	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等